



循環型社会の実現に向けて

背景

大量生産、大量廃棄を前提とした従来型の「リニア・エコノミー」による環境問題の深刻化が世界的に課題となる中、当社グループは、資源や製品の価値を最大化する「サーキュラー・エコノミーの推進」を新たなマテリアリティの一つと位置づけました。

目指すゴール(コミットメント)

私たちは、お取引先様やお客様との協働により、新たな環境価値を生み出すための革新的なビジネスモデルを創造し、サーキュラー・エコノミーにおける競争優位性を獲得します。

2023年度目標・KPI

- 廃棄物排出量(食品含む)15%削減(2019年度比)
- エコフによるリサイクル回収量累計1,500t
- お取引先様やお客様との協働による、使用済み製品のリサイクルや再製品化の実現
- お取引先様との協働によるシェアリング・アップサイクル等事業への新規参入

2020年度の主な取り組み

- 店舗における食品廃棄物の減容化、再資源化、フードロスへの取り組み
- レジ袋の有料化に伴う包装資材の削減
- エコフによる衣料品回収、再利用、再資源化
- ファッションサブスクリプション事業開始
- 洋服リペア、シューズクリーニング、買取専門店を集結したフロア展開(渋谷PARCO)

持続可能な未来に向けた

サーキュラー・エコノミー・ビジネスモデルの構築

サーキュラー・エコノミーとは、天然資源や製品を効率的に、かつ循環的に使用し、廃棄物の発生を最小限にし、ビジネス化する経済システムです。サーキュラー・エコノミーは、2015年に欧州でその概念が登場し、従来の大量生産・大量廃棄を前提とした「リニア・エコノミー」に代わる経済システムとして、世界的に広がっています。

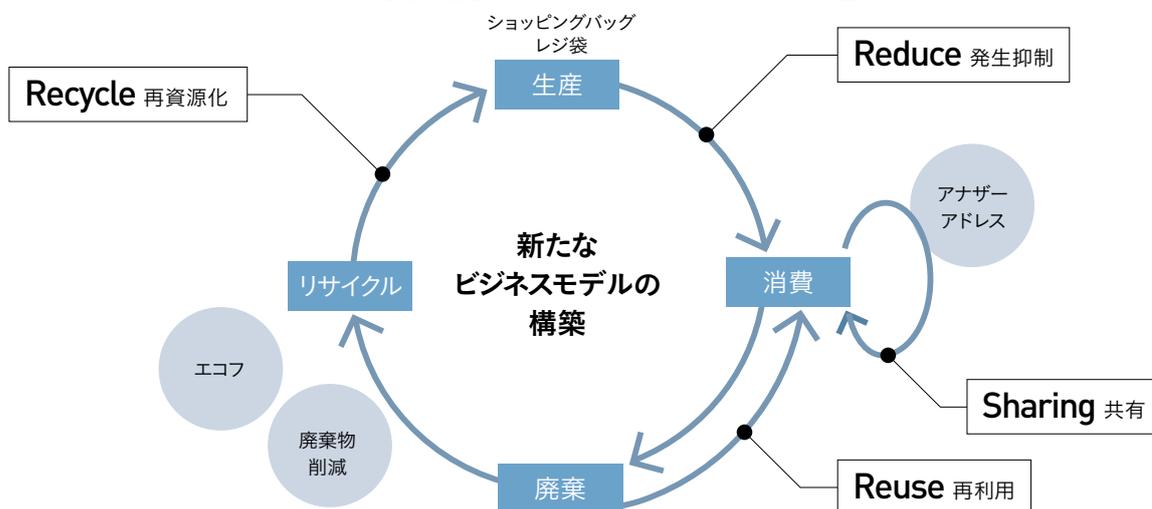
当社グループは、これまで、サーキュラー・エコノミーの一部を形成する3R*活動に取り組んできました。大丸松坂屋百貨店では、お客様がご不要になった衣料品・バッグ・靴などを店頭で回収し、リサイクルやリユースにより環境負荷を低減する「エコフ」活動を展開しています。この取り組みは、回収点数に応じてショッ

ピングサポートチケットを進呈し、環境保護だけでなく、お得にお買物をしていただける、循環型のショッピング&リサイクルキャンペーンとして、多くのお客様にご参加いただいています。

その一方で、当社グループは、3R活動をより進化させ、サーキュラー・エコノミーを実現させるためには、環境負荷の低減と同時に、新たなビジネス機会を獲得していくことが重要であると考えています。大丸松坂屋百貨店は、2021年3月から、ファッションサブスクリプション事業「AnotherADdress(アナザーアドレス)」を立ち上げました。「AnotherADdress」は、ファッションの本質的な価値や、サステナブルな取り組みを重視し、社会や環境にとって持続性の高いビジネスモデルへと進化することを目指すサービスです。

今後も、当社グループは、循環型社会の実現に向けて、自社の強みを活かしたビジネスモデルへの進化と新たな事業への挑戦を続けていきます。

JFRグループが取り組むサーキュラー・エコノミーのイメージ図



*3R: Reduce(抑制)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化)の3つのRの総称。